

平成 30 年度長野市観光振興計画の進捗及び指標達成状況について

1. 計画の目的及び評価の視点

(1) 長野市観光振興計画の目的

観光を通じて地域の魅力やそこにしかない資源を味わっていただき、長野市に何度も訪れてもらうリピーター＝「ながのファン」を創出・増加することが重要です。そこで本計画では、「ながのファン」創出・増加のための取組みを行い、その中で以下の2点についての実現を目指します。

①本市経済の活性化の実現

観光は経済活動です。訪れてもらうだけではなく、楽しんでもらいながら本市経済の活性化につなげる事業を実施します。

②地域コミュニティの活性化

観光客が訪れ、地域の人々と交流することは、ときには地域に希望や生きがいを生み出します。これまで観光客が訪れなかった地域にもスポットを当て、観光客と地域の交流を生み出す事業を実施します。

(2) 計画評価の意義と必要性

本計画では地域経済や地域コミュニティの活性化を目的に、観光振興のための様々な事業を実施します。そのためには、行政や観光関連組織だけでなく、民間事業者や地域住民も主体として活躍してもらう場面が多く出てくると考えられます。その際、多様な主体が共通認識を持って事業を行うことができるよう、計画を通じて目指す姿を指標化し、毎年度その達成状況を明確にしていきます。

前計画においては、事業を進める中で地域資源の磨き上げがある程度進んだ一方で、市内周遊する動きがあまり見られなかったなどの課題がありました。

そこで、本計画では、PDCAサイクルを毎年度回すことで、いずれの取組みも改善・改良して次につなげるようにしていきます。

2. 評価の方法

本計画の体系は、「政策－施策－事業」の3階層となっています。政策にはKPI（重要目標達成指標）を設定しており、数値によって年度の達成状況を把握していきます。

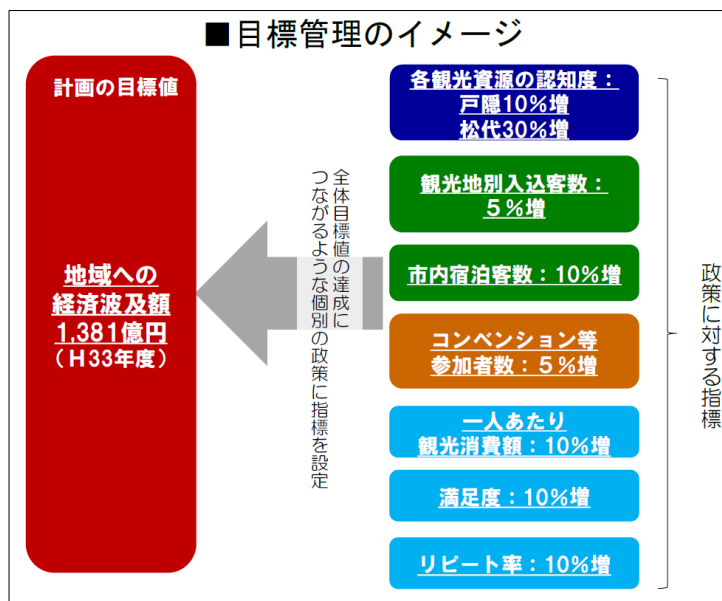
施策、事業は、事業の年度ごとの実施状況を評価し、それらを総括した評価を施策評価とします。

事業評価では、年度別に取組んだ事業について、取組みの成果・課題を整理し、次年度以降継続する必要があるかどうかについても評価します。

また、各事業が最終的に目指す指標として、総合目標値を設定します。

総合評価は、「ながのファン」の創出・増加に伴い、地域での消費活動の活発化を示す指標として「地域への経済波及額」を設定しています。

中間年においては計画を総合的に評価・検証し、事業継続の判断や、実施方法の改善等を行います。



3. 事業評価

政策別に取り組んだ事業について評価を行います。評価は施策別を実施し、事業による成果や外部要因による事業への影響等について分析し、次年度以降の継続についても評価します。

(別紙「平成30年度長野市観光振興計画に基づく事業実績及び評価」参照)

4. 政策別KPIの進捗状況

政策1～4は、事業の取組みを踏まえて目指すべき指標（KPI）を設定しています。それぞれの政策で設定したKPIの進捗状況を把握し、施策・事業がどのような効果をもたらしているのか、あるいは改善が必要なのかを分析し、次年度以降の事業検討に活用します。

(1) 各観光地の認知度

(単位：%)

		基準値 (H27年度)	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
善光寺	目標値	94.5	-	-	横ばい	-	横ばい
	実績値	-	-	-	82.6	-	
戸隠	目標値	79.3	-	-	85.0	-	90.0
	実績値	-	-	-	61.2	-	
松代	目標値	50.6	-	-	70.0	-	80.0
	実績値	-	-	-	34.8	-	
評価		※要因に関しては現在詳細分析中					

■ 目標値の算出方法：H27年度に実施した調査の結果、善光寺はすでに100%近い認知度を獲得していることから、この認知度を維持していくことを目標とする。戸隠はR3年度に10%（中間年度は5%）、松代は30%（中間年度は15%）の増を目標とする。

(2) 観光入込客数

(単位：千人)

		基準値	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
全 市	目標値	17,008 (H27 御開帳) 10,018 (平常年)	10,100	10,200	10,300	10,400	17,900
	実績値	-	11,008	10,727	年度明けに集計		
善光寺	目標値	12,288 (H27 御開帳) 6,235 (平常年)	6,300	6,360	6,423	6,485	12,903
	実績値	-	6,653	6,354	年度明けに集計		
戸 隠	目標値	1,613	1,629	1,645	1,661	1,678	1,694
	実績値	-	1,496	1,578	年度明けに集計		
松 代	目標値	776	784	792	800	808	815
	実績値	-	659	592	年度明けに集計		
評価	<p>全市の観光入込客数は、平成 30 年度は、平成 29 年度から 30 万人減少しているが、目標値は達成している状況である。</p> <p>特に減少が見られるのが、善光寺であり、30 万人減少しており、この影響が全市の入込客数に響いている。信州デスティネーションキャンペーンの終了や次回のご開帳まで 3 年となる中、観光客がご開帳まで来訪を控える傾向にあると推測される。</p> <p>戸隠の実績値は目標値には到達していないが、信州デスティネーションキャンペーンが終了したにも関わらず 8 万人近く入込客数を増加させ、実績値と目標値の差は縮小している。月別にみると、4 月の入込客数が前年度比 168% で大きく増加している一方、12 月が前年度比 43% に大きく減少している。その他月によって増減に分散がみられるものの、全体を通して減少率が低く、増加率が高い。</p> <p>戸隠の長年の課題である「冬の観光」に力を入れ、年間通じた観光客の平準化をはかり、目標達成につなげていく必要がある。</p> <p>松代は平成 29 年度より入込客数は減少し、目標値と実績値の差は拡大している。特に、月別にみると、12～3 月の入込客数は前年度比 101% でわずかに増加しているが、4～11 月の入込客数は前年度比 88% で減少している。平成 28 年の大河ドラマ「真田丸」の効果を十分に活かし切れていない可能性があり、松代の観光資源を十分に活かしたコンテンツづくり、プロモーション等が求められる。</p>						

■目標値の算出方法：平常年はH22年度からH26年度の平均値を使用。H29年度からR2年度は平常年の基準値をもとに毎年1%増、R3年度はH27年度から5%増を目標とする。

(3) 市内宿泊客数

(単位：千人、人)

		基準値 (H27年)	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
総宿泊客数 (千人)	目標値	1,603 (H27御開帳) 1,400 (平常年)	1,428	1,456	1,484	1,512	1,763
	実績値	-	1,608	1,533	年度明けに集計		
外国人 宿泊客数 (人)	目標値	59,206	61,600	64,000	66,300	77,000	71,000
	実績値	-	113,177 [*86,382]	153,977 [*107,081]	年度明けに集計		
評価		<p>観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、総宿泊客数は、1,533千人で平成29年よりは下回ったが、目標値は達成している。なお、観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると日本全体の宿泊旅行者は、平成30年度は前年比で10.0%減少しており、一方、長野市においては、4.7%にとどまっている。平成30年は西日本豪雨や北海道胆振地方での地震、大型の台風21号が関西に上陸し、関西空港が全面閉鎖になるなど自然災害が多く発生し、観光に影響を与えたとともに個人消費が伸び悩んだ。総宿泊客数の減少にはこれらも影響していると推測される。</p> <p>外国人宿泊客数は、平成29年から平成30年にかけて4万人増加(36.0%の増加率)しており、目標値の倍以上の値となっている。この数字は、観光庁「宿泊旅行統計調査」による国全体の外国人宿泊客数の伸び率(H29→H30)18.3%を大幅に上回っており、インバウンドの誘客には成功しているといえる。</p> <p>外国人宿泊客数は伸びているとはいえ、総宿泊客数の1/10の規模である。日本人宿泊客市場において、地域間競争に勝つことが最重要である。よって今後は、特に日本人観光客をターゲットとし、長野市を訪れる動機となる観光コンテンツの磨き上げや食に力を入れ、他地域に勝てる観光地づくりにさらに取り組んで行く必要がある。</p>					

※…この数値は長野県「外国人延泊者数調査」による実績値である。

- 目標値の算出方法：
- (1) 総宿泊客数：観光庁「宿泊旅行統計調査」のデータを活用し、平常年はH23年からH26年の平均値を使用。H29年からR2年は平常年の基準値をもとに毎年2%増、R3年はH27年から10%増を目標とする。
 - (2) 外国人宿泊客数：H27年を基準値とし、R2年のみ基準値から30%増、それ以外は基準値から毎年4%増を目標とする。
 - (3) いずれの数値も暦年にて算出

(4) コンベンション等参加者数

(単位：人)

		基準値 (H27 年度)	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
参加者数	目標値	115,537	-	-	-	-	120,000
	実績値	-	106,513	113,702	年度明けに集計		
評価		<p>コンベンション等参加者数は平成 30 年度で 113,702 人となっている。目標達成に向け、誘致するコンベンション数を増やす、大型と併せ中小規模のコンベンションを誘致するなどの取組みを継続的に実施していくことが必要である。</p>					

■目標値の算出方法：R3 年度において、基準値(H27 年度実績)の 5%増を目標とする。

(5) 一人あたり観光消費額

(単位：円)

		基準値 (H27 年度)	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
全 体	目標値	13,017	13,300	13,500	13,800	14,100	14,300
	実績値	-	13,866	10,415	12,073		
宿泊客	目標値	21,266	21,700	22,100	22,500	23,000	23,400
	実績値	-	22,307	18,536	20,462		
日帰り客	目標値	7,658	7,800	8,000	8,100	8,300	8,400
	実績値	-	6,812	6,207	6,811		
評価		<p>市内来訪者への対面調査（来訪者調査）結果をもとに算出した、一人あたり観光消費額（宿泊客および日帰り客を含めた全体）では、平成 29 年度は信州デザインキャンペーン等の効果もあり、基準値より増加し 13,866 円と高い水準となった。しかし、平成 30 年度は 10,415 円と落ち込んだ。</p> <p>平成 30 年は自然災害などが要因となり個人消費が冷え込み（出典「日本経済情報 2018 年 12 月号」伊藤忠経済研究所）、消費者物価指数の伸びも 0.5%（総合指数）に押さえられるなど、経済が低迷した年であった。そのため、観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると平成 30 年の国内旅行消費額は前年比の 3.0%減（宿泊旅行消費額：1.7%減、日帰り旅行消費額：7.0%減）と国内観光市場が縮小し、その影響を受けて、長野市の観光消費額も低下したものと推測される。</p> <p>なお、令和元年度には 12,073 円と持ち直しているものの平成 27 年度時点の基準値を下回っている。この傾向は宿泊客、日帰り客別の値をみても同様である。</p> <p>目標達成のためには残る 2 年度において、宿泊客で約 3,000 円、日帰り客で約 1,600 円、消費額を増やすことが必要となる。飲食・お土産や着地型観光コンテンツの開発・魅力向上、およびそのプロモーションの取組みに力を入れ、具体的な成果を出すことが求められる。</p>					

■目標値の算出方法：来訪者調査の結果(H27 年度実施)を基準値とし、毎年 2%の増（R3 年度において 10%の増）を目標とする。

(6) 満足度（とても満足の割合）、リピート率

(単位：%)

満足度 (とても満足 of 割合)		基準値 (H27 年度)	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
全 市	目標値	46.6	-	-	-	-	57.0
	実績値	-	39.7	40.9	44.0		
善光寺	目標値	43.1	-	-	-	-	53.0
	実績値	-	37.8	43.2	45.5		
戸 隠	目標値	54.3	-	-	-	-	65.0
	実績値	-	49.2	48.5	55.8		
松 代	目標値	43.1	-	-	-	-	53.0
	実績値	-	36.6	31.6	31.4		
リピート率		基準値	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
	目標値	56.0	-	-	-	-	66.0
	実績値	-	65.7	56.4	60.9		
評価		<p>市内来訪者への対面調査（来訪者調査）結果をもとに算出した、全市の満足度（アンケート調査で「とても満足」と回答した割合）は40%前後で推移しており、令和元年度は44.0%と基準値を下回ったままであるが、一定の水準を維持しているといえる。</p> <p>地域別の満足度をみると、善光寺および戸隠はいずれも令和元年度には基準値を上回っているが、それぞれ目標値を達成するためには、引き続き魅力向上の取り組みに力を入れることが求められる。また、松代では満足度が減少を続けており、目標達成のためには20%以上の上昇が必要となっている。満足度向上のためこ入れが求められる。</p> <p>リピート率については、年度ごとに増減があるものの、令和元年度で60.9%となっており、既に高い水準にある。目標値である66.0%の達成に向けて、引き続き満足度向上や四季折々の楽しみ方の開発など、複数回来訪するための理由づくりが必要となる。</p>					

- 目標値の算出方法：(1) 満足度：来訪者調査(H27年度実施)の結果を基準値とし、R3年度において10%増を目標とする。なお、満足度の質問項目は、1.とても満足 2.まあ満足 3.やや不満 4.とても不満の4項目で、項目1、2の回答割合を満足度として用いている。
- (2) リピート率：市外在住者で3回以上来訪経験を持つ者の割合について、10%増を目標とする。

(7) 経済波及額

(単位：億円)

		基準値	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度
	目標値	1,256 (H27 御開帳) 744 (平常年)	759	774	789	804	1,381
	実績値	-	918	700	年度明けに集計		
評価		<p>平成 29 年度は、観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると、国内旅行者数が前年比 1.0%増、国内旅行消費額が前年度の 0.8%増加（日帰り旅行消費額 2.3%増、宿泊旅行消費額前年比 0.3%増）など、観光市場が成長した年であった。また、長野県においては、信州グスティネーションキャンペーン等の影響もあり、経済波及額は目標値の 759 億円を上回り 918 億円となった。</p> <p>しかし、平成 30 年度は自然災害などの影響もあり、個人消費が停滞し、一人あたり観光消費額が前年比、日帰り客で 8.9%減、宿泊客で 16.9%減となった。また、長野市の観光入込客数において、日帰り客は前年比 2.8%増であったが、宿泊客は 14.7%減となったことも影響し、経済波及額が 700 億円と平成 29 年度から落ち込んでいる。</p> <p>観光は経済状況、天候や災害等、外部要因の影響を受けやすく、平成 30 年度はそれら外部要因により経済波及額が抑制された年となった。計画後半においても、長野市においてコントロールできない、自然災害や政治・経済リスクが発生する可能性を否定することができないため、これらが発生した際には迅速に対応できる（風評被害への対応や復旧対応、イメージ回復）体制づくりも必要といえる。また、同時に、景気が低迷していても、長野市を訪れて観光をしたくなるような長野市ならではのコンテンツ等の開発は引き続き必要といえる。</p>					

■ 目標値の算出方法：来訪者調査(H27年度実施)により、市内での観光消費額を算出。H27年度の観光入込客数と、H22年度からH26年度の観光入込客数の平均値をそれぞれ用いて、H23長野県版産業連関表をもとに算出。H29年度からR2年度は平常年の基準値をもとに毎年2%増、R3年度はH27年度から10%増を目標とする。